



Ideas & Chemistry

2017.5.12

2016年度決算説明会資料



東洋紡株式会社

決算のポイント

16年度実績

- 営業利益は 233億円(0.9%増)にとどまり、当期純利益は減益
- バグフィルター用PPS素材やアクリル繊維が、中国向けで苦戦。
また、ブラジル繊維事業は、環境変化を踏まえ、休止
- “コスモシャインSRF”は大幅増収、エアバッグは海外展開進む

17年度予想

“コスモシャインSRF”やエアバッグの拡大、PPS素材の改善などを見込むも、原料価格の上昇を織り込み、営業利益は250億円を予想

	15年度			16年度			直近予想 (2017/2)
	上期	下期		上期	下期	(億円)	
売上高	1,797	1,681	3,478	1,647	1,648	3,295	3,400
営業利益	105	126	231	107	127	233	230
特別損失	11	38	49	33	39	72	52
親会社株主に帰属 する当期純利益	54	48	101	37	58	94	100

I . 2016年度決算概況

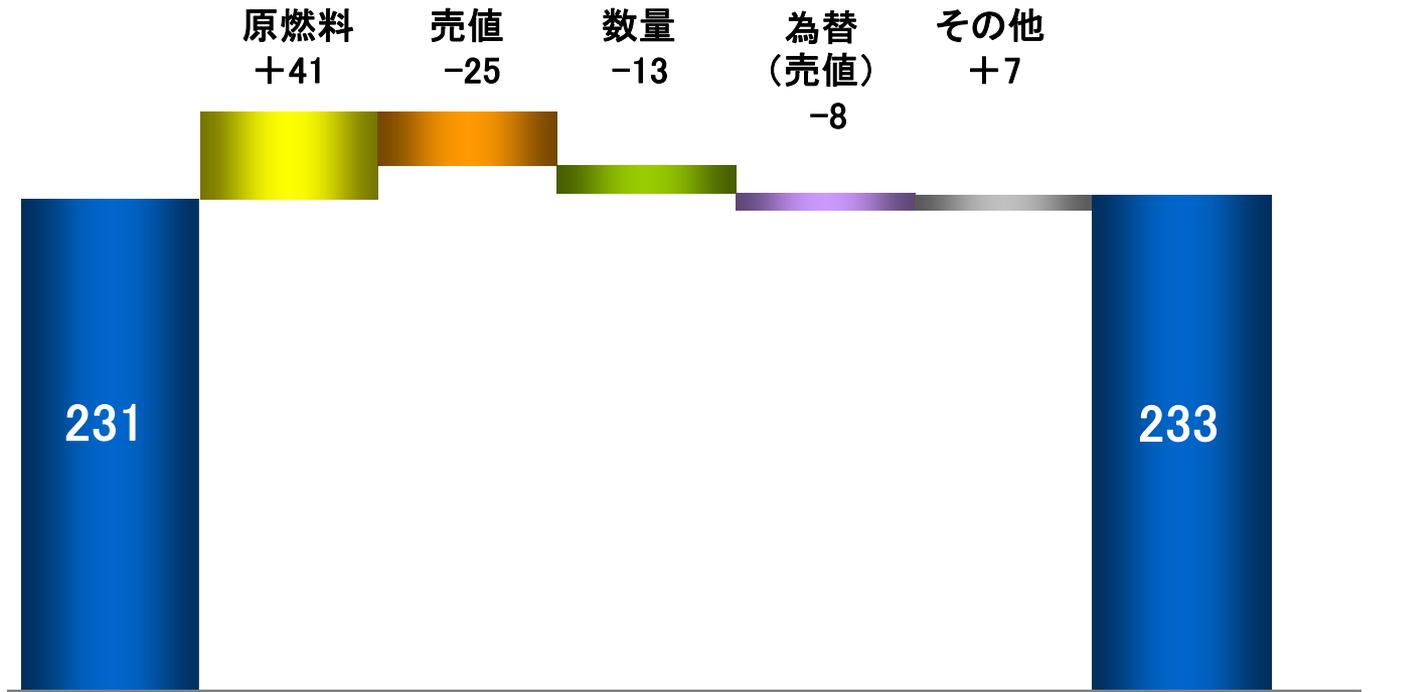
(1) 決算概要 ① PL・CF

(億円)

	15年度	16年度			増 減		直近予想 (2017/2)
		上期	下期		金額	%	
売上高	3,478	1,647	1,648	3,295	-183	-5.3%	3,400
営業利益	231	107	127	233	+2	+0.9%	230
(営業利益率)	6.6%	6.5%	7.7%	7.1%	-	-	6.8%
経常利益	204	87	119	207	+3	+1.3%	200
特別損失	49	33	39	72	+23	+47.4%	52
親会社株主に帰属 する当期純利益	101	37	58	94	-7	-6.9%	100
EPS(円)	11.43	4.12	6.52	10.64	-	-	
減価償却費	144	73	76	149	+5	+3.5%	
設備投資	173	78	105	184	+10	+5.9%	
営業CF	323	106	162	269	-55	-16.9%	
為替レート(円/US\$)	120	105	112	109			
国産ナフサ価格(千円/kl)	43	32	38	35			

営業利益増減要因分析(前年同期比)

【15年度→16年度】



15年度

16年度 (億円)

	15			16		
	上	下		上	下	
円レート (円/US\$)	122	118	120	105	112	109
国産ナフサ (千円/kl)	48	38	43	32	38	35

② BS

	(A)			(B)	(億円)
	15/3末	16/3末	17/3末	増減 (A) → (B)	
総資産	4,658	4,446	4,508	+62	
現預金	206	203	323	+121	
棚卸資産	824	753	728	-26	
純資産	1,611	1,601	1,709	+108	
自己資本	1,580	1,569	1,678	+109	
(利益剰余金)	325	395	459	+64	
(退職給付に係る調整累計額)	-16	-57	-23	+35	
非支配株主持分	31	32	31	-0	
有利子負債	1,771	1,654	1,692	+39	
D/E レシオ	1.12	1.05	1.01		

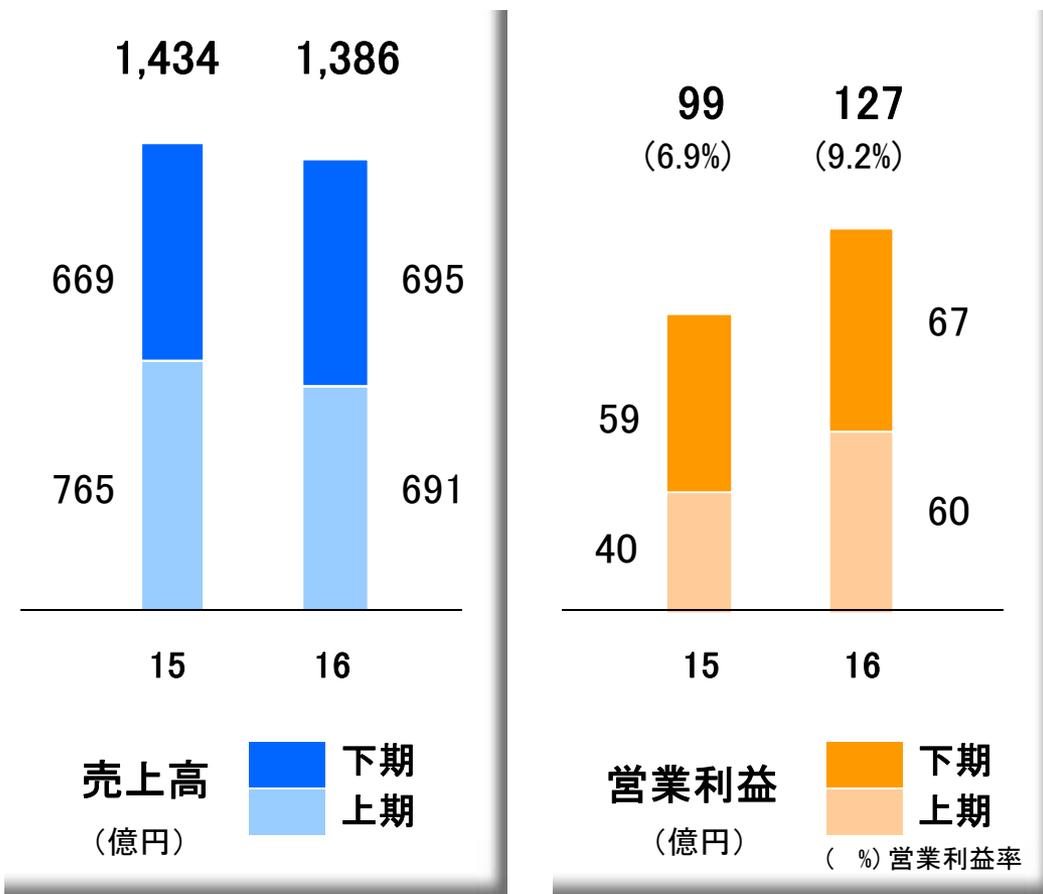
(2) セグメント別

(億円)

	売上高				営業利益				増減
	15年度	16年度		15年度	16年度				
		上期	下期		上期	下期			
フィルム・機能樹脂	1,434	691	695	1,386	99	60	67	127	+28
産業マテリアル	705	324	368	692	63	20	28	48	-15
ヘルスケア	277	145	127	271	47	19	24	43	-4
繊維・商事	855	398	377	776	25	4	6	11	-14
不動産・その他	206	89	81	170	28	17	16	33	+5
消去・全社	-	-	-	-	-32	-15	-15	-29	+2
合計	3,478	1,647	1,648	3,295	231	107	127	233	+2

① フィルム・機能樹脂

包装用フィルムは、原料価格の影響で減収
工業用フィルムは、コスモサインSRFの出荷拡大



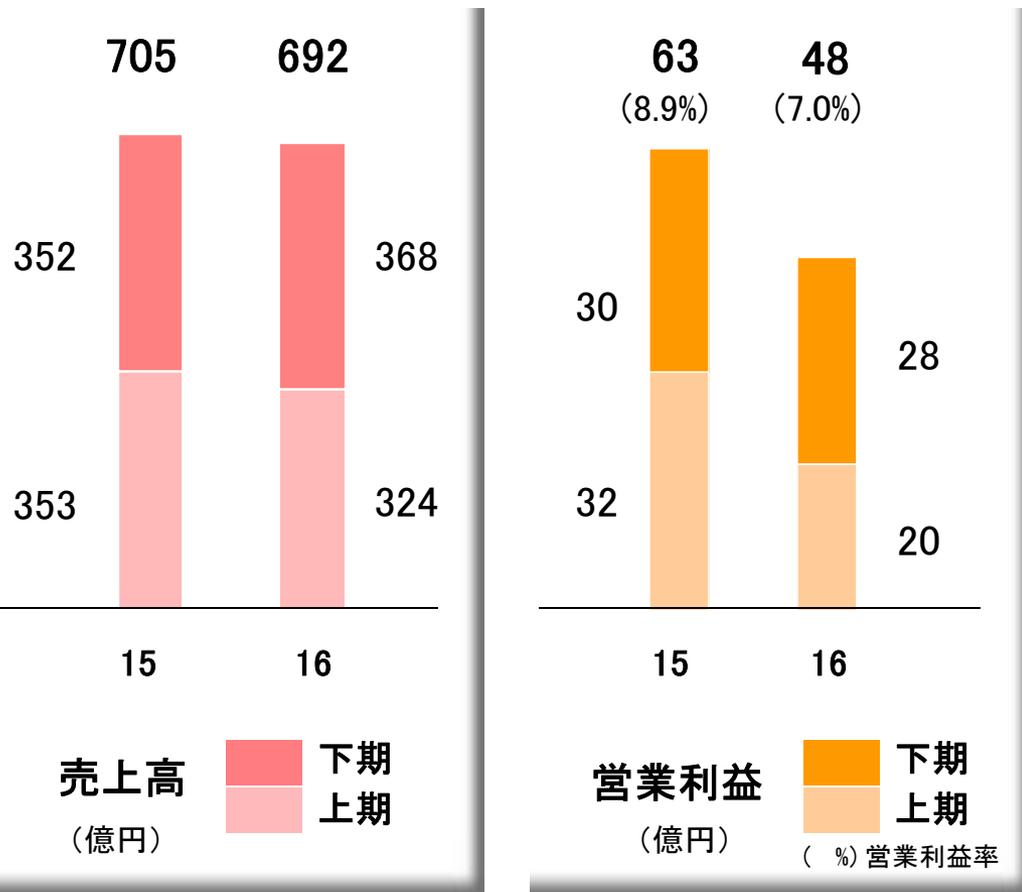
- **包装用フィルム**
 - ・需給バランス堅調
 - ・生産設備の最適化進む

- **工業用フィルム**
 - ・コスモサインSRFは、大手偏光板メーカーへの出荷拡大

- **機能樹脂**
 - ・ハードレンは、自動車塗料向け好調
 - ・エンプラは、海外で数量増

② 産業マテリアル

エアバッグ用基布は、米国、アジアなどで拡販準備進む
 バグフィルター用PPS素材が、中国向けで苦戦



● スーパー繊維

- ・イザナスは、ロープ・釣り糸用途が堅調、ザイロンが伸び悩み

● 機能フィルター

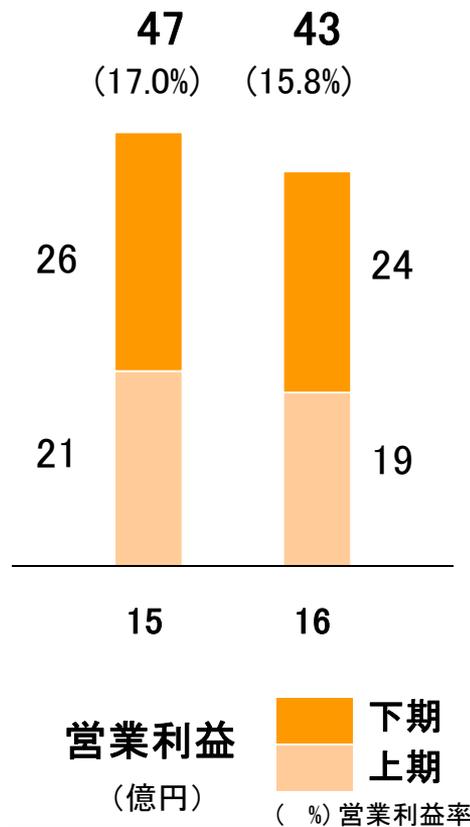
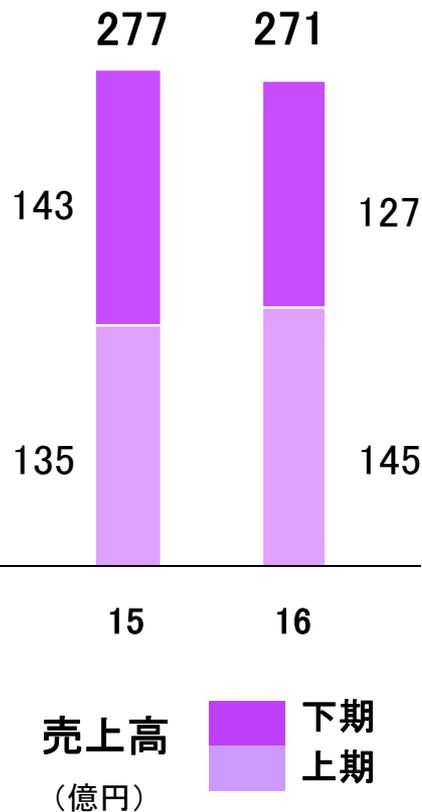
- ・VOC処理装置は、アジア市場で販売伸びる

● エアバッグ用基布

- ・海外の拠点を整備
 拡販体制を強化

③ ヘルスケア

バイオ、アクア膜で為替の影響あり
 メディカル事業は、医薬、医療機器で苦戦



● バイオ

- ・診断薬用酵素は為替の影響あり
- ・ライフサイエンス用試薬、診断システムは好調

● 医薬

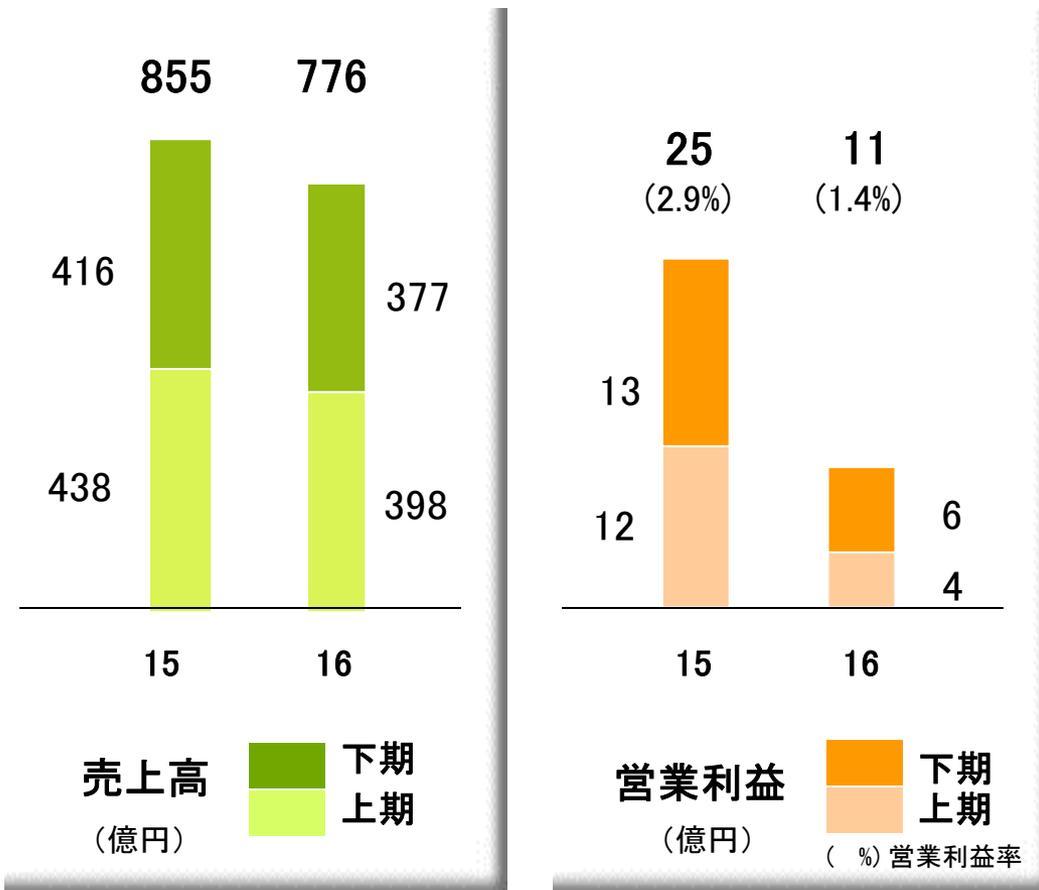
- ・医薬品製造受託は、足元の案件確保に苦戦

● 機能膜

- ・アクア膜は交換膜の販売堅調も、為替の影響あり

④ 繊維・商事

中東向けトープは、為替の影響あり
 アクリル繊維は、中国のアンチダンピング政策を受け苦戦



● 東洋紡STC(繊維)

- ・ユニフォーム事業は堅調
- ・中東向けトープで為替の影響あり

● アクリル繊維

- ・中国市況の軟化に加え、アンチダンピング政策の影響あり
- ・事業構造の改革へ

● ブラジル繊維事業

- ・環境変化を踏まえ休止

Ⅱ. 2017年度業績予想

(1) 業績予想

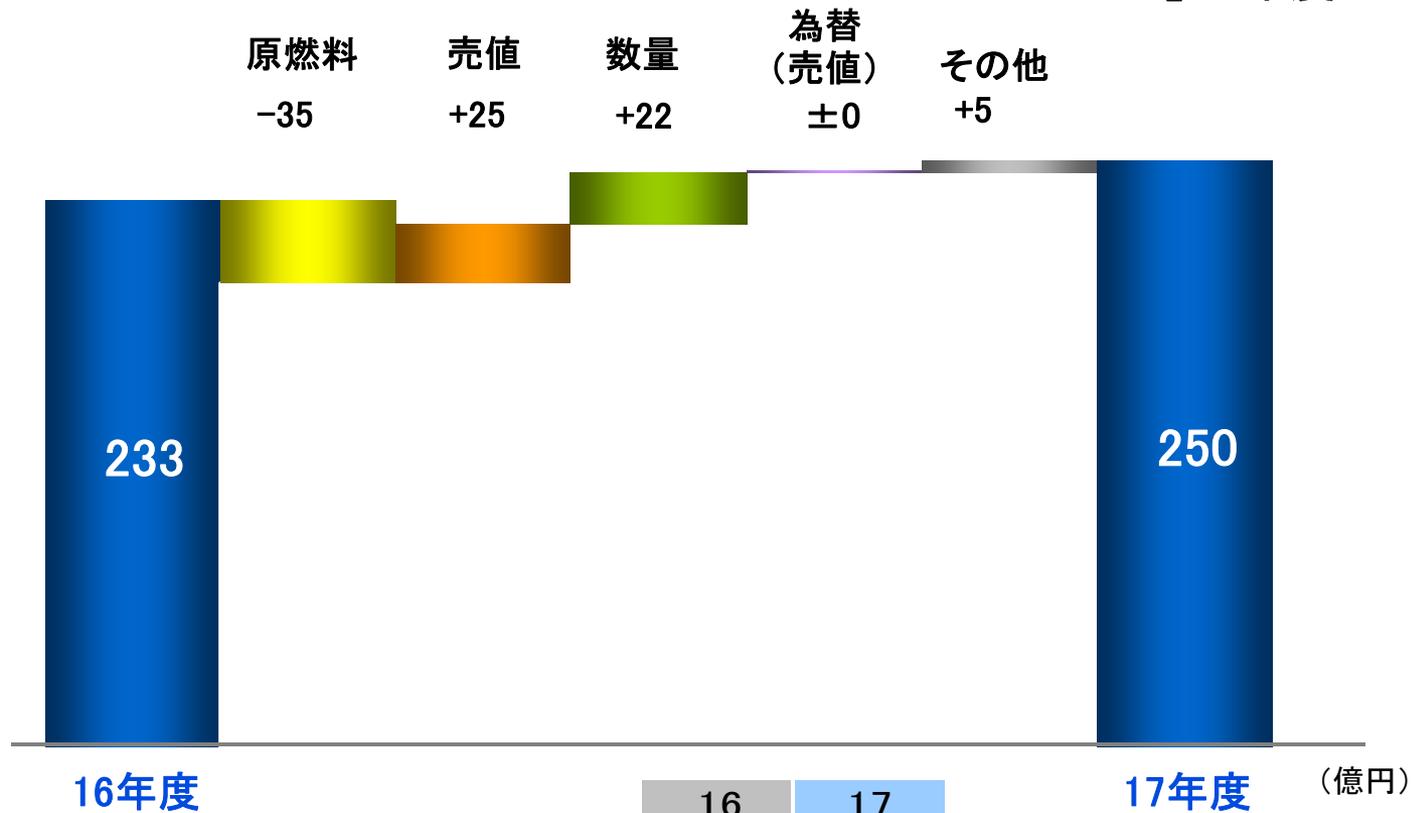
(億円)

	16年度実績	17年度予想	増 減	
			金額	%
売上高	3,295	3,400	+105	+3.2%
営業利益	233	250	+17	+7.1%
(営業利益率)	7.1%	7.4%	-	-
経常利益	207	230	+23	+11.4%
特別損失	72	32	-40	-56.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	94	135	+41	+42.9%
EPS(円)	10.64	※ 15.21	-	-
減価償却費	149	155	+6	-
設備投資	184	190	+6	-
為替レート(円/US\$)	109	110		
国産ナフサ価格(千円/kl)	35	42		

※株式併合の影響考慮後: 152.06

営業利益増減要因予想

【16年度→17年度】



	16	17
円レート (円/US\$)	109	110
国産ナフサ (千円/kl)	35	42

(2) セグメント別予想

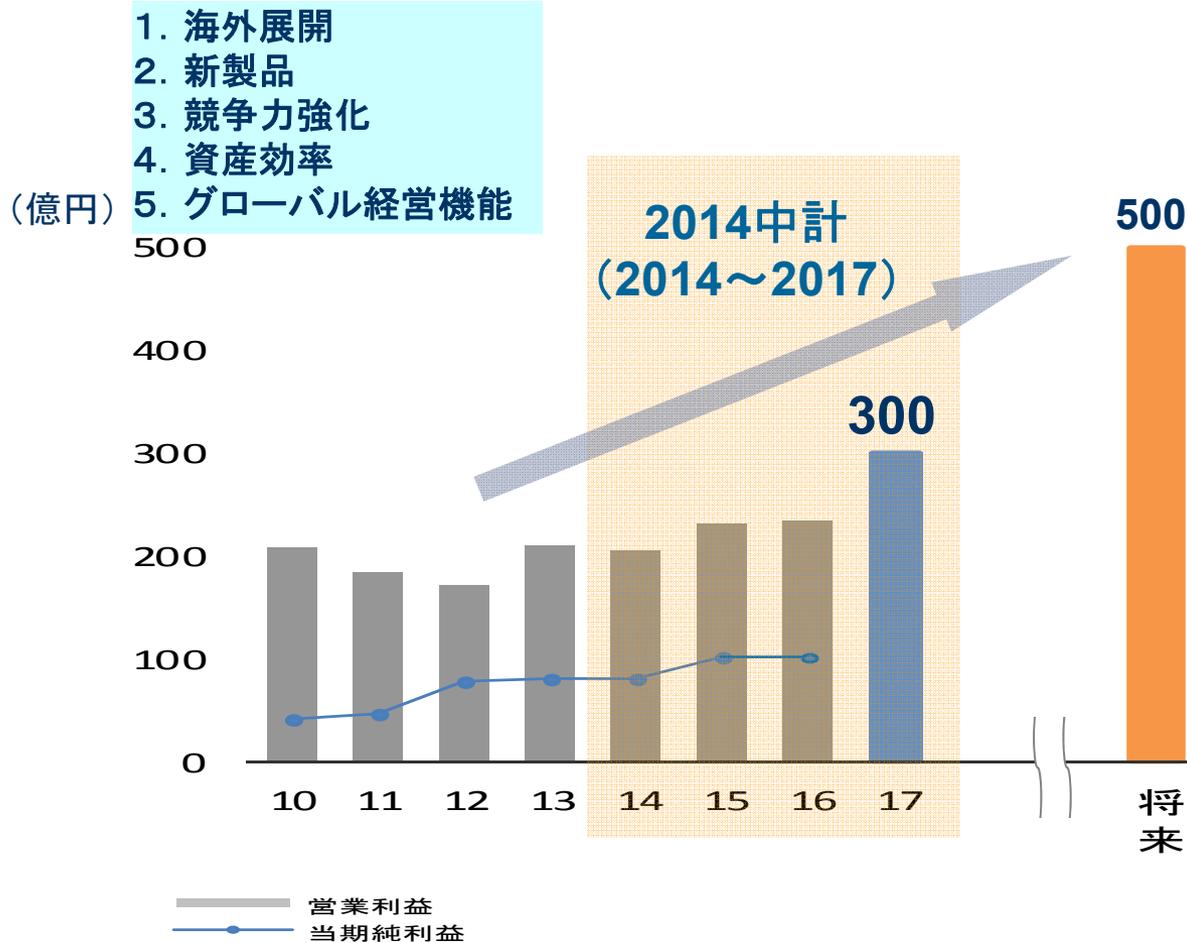
(億円)

	売上高		営業利益		増減
	16年度	17年度	16年度	17年度	
フィルム・機能樹脂	1,386	1,450	127	137	+10
産業マテリアル	692	740	48	53	+5
ヘルスケア	271	283	43	45	+2
繊維・商事	776	756	11	11	+0
不動産・その他	170	171	33	33	+0
消去・全社	—	—	—29	—29	+0
合計	3,295	3,400	233	250	+17

Ⅲ. 2014年中計進捗

2014中計の位置付け

将来のめざす姿（売上高5,000億円・営業利益500億円）への成長軌道に乗せるための中計



	(億円)
2017 中計目標	
売上高	4,200
営業利益 (益率)	300 7.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	140
ROE	8%
D/E(倍)	<1.0

アクションプランの進捗(2016年度)

1. 海外展開加速

■ エアバッグ基布

- ・ PHP買収を軸にグローバル展開
- ・ タイ、中国、米国の拠点整備
- ・ 17年度下期からの本格拡大に向け、
拡販体制強化



■ エンジニアリングプラスチック

- ・ 米国、中国他で自動車向け拡販
- ・ 海外販売数量増
- ・ インド現地法人設立へ



3. 競争力強化

■ ブラジル繊維事業の休止

■ アクリル繊維事業の構造改革

2. 新製品の拡大・創出

■ 超複屈折ポリエステルフィルム “コスモシャイン SRF”

- ・ 偏光子保護フィルムとして展開
- ・ 低透湿性、ハンドリング性に優位性
- ・ 大手向け中心に売上は2.2倍増



■ 神経再生誘導チューブ “ナーブリッジ”

- ・ 国内では使用施設数、適用症例数で実績
- ・ FDA承認を取得、次期中計で海外展開へ



■ ウェアラブルデバイス用 フィルム状導電素材 “COCOMI”

- ・ センサー部材用途で展開



「Horsecall」の心拍数測定用腹帯カバーを装着した競走馬



腹帯カバー

重点拡大分野 ～成長のための布石～

■ 再生誘導材料

- 骨再生誘導材 ～骨欠損部に埋入、骨の再生を誘導～
 - ・ リン酸オクタカルシウム・コラーゲン複合体
 - ・ 歯科口腔外科領域で治験進捗
 - ・ 製造販売承認申請を経て、2018年の製品化をめざす



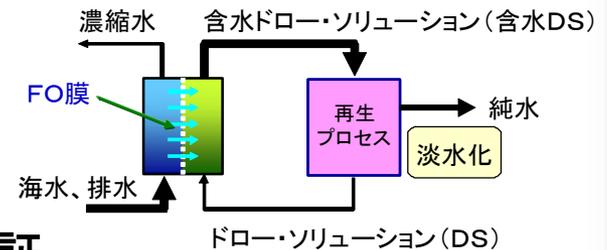
■ フィルム海外展開

- 高機能包装用フィルム
 - ・ シュリンクフィルム
 - ・ バリアフィルム
 - ・ 他社との協業も視野に



■ 分離膜

- FO膜(正浸透膜) ⇔ RO膜(逆浸透膜)
 - ・ 自然現象を利用する省エネ型システム
 - ・ 海水淡水化、浸透圧発電に利用
 - ・ 世界各地の実証試験で進捗、当社膜の優位性検証



ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

補 足

訴訟関連

<概要>

- ① 03年6月、ザイロン繊維使用の防弾ベスト事故(米国ペンシルバニア)(貫通事故:1件)
- ② 事故被害者、同種ベスト購入者等が、防弾ベストメーカー、当社に損害賠償請求を提起
- ③ 防弾ベストメーカーの元取締役が米国不正請求禁止法に基づく訴訟を提起、
米国政府(司法省)がこの訴訟に原告として参加
- ④ 事故を起こしたメーカー以外の防弾ベストに関しても、米国政府(司法省)が訴訟を提起

<解決済みの訴訟—いずれも和解による解決>

- ・購入者からの集団訴訟—2005年10月
- ・事故被害者からの訴訟(PL関連訴訟)—2006年から2007年
- ・ドイツ州政府からの訴訟—2009年2月
- ・防弾ベストメーカーからの訴訟—2011年7月(2件)および2012年3月

<訴訟状況>

(2017.5.12現在)

	クラスアクション	PL関連	政府関係		防弾ベストメーカー			政府関係
原告	購入者	警官	アーカンソー州	米国司法省	セカンドチャンス	ポイントブラック	ファーストチョイス	ドイツ州政府
状況	和解成立 (05年10月)	和解成立 (06~07年)	訴状受取後 動きなし	証拠開示 手続済	和解成立 (11年2月)	和解成立 (11年7月)	和解成立 (12年3月)	和解成立 (09年2月)
件数	10件	4件	1件	2件	1件	1件	1件	1件